

Title	小特集：地球温暖化対策および循環型社会の形成
Sub Title	序 Preface
Author	深海, 博明(Fukami, Hiroaki) 山口, 光恒(Yamaguchi, Mitsutsune)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2001
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.94, No.1 (2001. 4) ,p.1- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：地球温暖化対策および循環型社会の形成
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20010401-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小特集：地球温暖化対策および循環型社会の形成

2001年3月15（木）／16（金）の2日間にわたり慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、現在喫緊の課題である地球温暖化対策および循環型社会の形成をテーマに「慶應環境会議」が開催された。この小特集はその際の報告の一部を纏めたものである。主催は慶應義塾大学経済学部環境プロジェクトであるが、同プロジェクトはこれまで三田学会雑誌に2度にわたり環境小特集を掲載した（85巻4号「環境と経済」、92巻2号「低環境負荷型社会の構築に向けて」）ほか、『地球環境経済論（上・下）』、『持続可能性の経済学』、『ゼミナール地球環境論』（いずれも慶應義塾大学出版会）を出版している。

慶應環境会議の発表者、テーマおよび参加者は後記の通りであるが、目的は経済学者、法学者、行政、産業界の広い分野から環境問題のキーパーソンが一堂に会し、それぞれ異なる観点から問題解決に向け密度の濃い論議をし、それを通してお互いのコミュニケーションをはかると共に、具体的な政策の展開に役立てようというものである。2日間の会議を通してこの点十分な成果をあげることが出来たと思う。

会議初日は循環型社会をテーマに6人が発表した。中村慎一郎（早稲田大学）は廃棄物につき産業連関分析を用いて新たな視点を提供し、外川健一（九州大学）は従来余り知見のない台湾・韓国の自動車および家電リサイクルにつき発表した。これに続いて産業界から経団連廃棄物部会長の庄子幹雄（鹿島建設副社長）、続いて経済産業省から廃棄物政策の担当課長である田辺靖雄が報告したが、これらに対して活発な質疑があった。北村喜宣（横浜国立大学、現上智大学）は法学者の観点から建設廃棄物の問題点を指摘し、最後に細田衛士（慶應義塾大学）は処分場は経済学で言う枯渇性資源であるとの持論を展開し、これには大沼あゆみ（東京外国語大学、現慶應義塾大学）がコメントーターをつとめた。

2日目は森島昭夫（中央環境審議会会長）が温暖化の国内対策の現状を述べ、温暖化交渉の直接の担当室長である谷みどり（経済産業省）が国際交渉について報告した。この後の質疑応答で、アメリカが京都議定書を批准しない場合の対応が問題になったが、それから2週間も経たないうちにブッシュ大統領が同議定書からの離脱を声明する事態となった。次いで太田元（経団連）が産業界の取り組みにつき系統だった説明をした。午後に入り、黒田昌裕（慶應義塾大学）の報告（現在の温

暖化対策継続の場合の温室効果ガス排出量見込みの計量分析)には十市勉(日本エネルギー経済研究所, 2001年4月から慶應義塾大学経済学部非常勤講師を兼務)がコメンテーターをつとめたほか, 産業界からの出席者も交えて真剣なやりとりがあった。続いて, 岡敏弘(福井県立大学)は排出権取引に焦点を当てて温暖化国内対策を講じ, 横山彰(中央大学)は地方税の側面から温暖化に迫り, これに対して飯野靖四(慶應義塾大学)が別の観点からコメントした。最後に山口光恒(慶應義塾大学)が自動車燃費規制を例に温暖化対策と貿易障害の問題につき報告して会議を終了した。

上記の通り, 産・官・学による会議は成功裏に終了した。今後もこうした試みを続けていくことで, 日本の環境政策に些かでも貢献したいと考えているところである。

なお, 小特集は原則として会議での発表内容を基にしたものであるが, 偶々この時期に OECD でかねてから検討していた EPR(拡大生産者責任)に関するガイダンスマニュアルが公刊され, 関係者の間での関心も高いので, 山口論文は報告の内容ではなく, このテーマのものに差し替えた。

プログラム

<発表者及びテーマ(所属は会議当日のもの)>

3月15日 司会 細田衛士(慶應義塾大学)

中村慎一郎(早稲田大学)

「廃棄物産業関連(WIO)分析の理論と応用」

外川健一(九州大学)

「自動車および家電リサイクルシステムの日・韓・台3国の比較研究」

庄子幹雄(鹿島建設, 経団連廃棄物部会長)

「産業界における廃棄物対策について」

田辺靖雄(経済産業省)

「我が国リサイクル政策の現状と課題」

北村喜宣(横浜国立大学)

「廃棄物リサイクルをめぐる法政策: 建設廃棄物を例にして」

細田衛士(慶應義塾大学)

「廃棄物処理における最適リサイクル量の決定について」

* コメンテーター 大沼あゆみ(東京外国語大学)

3月16日 司会 黒田昌裕(午前の部) 山口光恒(午後の部)

森島昭夫(中央環境審議会会長)

「温暖化に対する国内政策」

谷みどり（経済産業省）

「京都議定書に関する国際交渉」

太田元（経団連）

「産業界の考え方と対応」

黒田昌裕（慶應義塾大学）

「地球温暖化とエネルギー政策」

* コメンテーター 十市 勉（日本エネルギー経済研究所）

岡敏弘（福井県立大学）

「温暖化国内政策手段の比較と評価——排出権取引の可能性——」

横山彰（中央大学）

「地方税と温暖化」

* コメンテーター 飯野靖四（慶應義塾大学）

山口光恒（慶應義塾大学）

「温暖化対策と貿易」

<参加者>（アイウエオ順）

産業界

青柳 雅（三菱総合研究所），今城高之（日本自動車工業会），

上野 明（日本容器包装リサイクル協会），笹之内雅幸（トヨタ自動車），須田泰一郎（関西電力），

竹内啓介（日本自動車リサイクル部品販売団体協議会），多屋貞男（伸生），

西村邦幸（三菱総合研究所），松村恒男（三菱電機），松山 茂（新日本製鐵），

諸戸孝明（伊藤忠商事）

学界

大塚 直（学習院大学），川島康子（国立環境研究所），寺西俊一（一橋大学），

藤田康範（慶應義塾大学），六車 明（慶應義塾大学）

行政

井上博雄（経済産業省）

深 海 博 明

（名誉教授）

山 口 光 恒

（経済学部教授）